

20高虫防第69号  
平成20年10月14日

各関係機関長 様

高知県病害虫防除所長

病害虫発生予察情報について

病害虫発生予察特殊報第1号を送付します。

平成20年度病害虫発生予察特殊報第1号

平成20年10月14日  
高知県病害虫防除所

1. 病害虫名           チャノキイロアザミウマ  
                          学名：*Scirtothrips dorsalis* Hood
2. 発生物種           ピーマン、シトウ
3. 特殊報発令根拠    主要品目における被害の初確認
4. 発生確認の経過  
(1) 平成20年1月、南国市の施設シトウ(10a)において、新葉が湾曲、変形するとともに、果実や果梗部が細かくひび割れる被害が発生した。被害部分に黄色の小さなアザミウマが確認されたことから、高知県農業技術センターで同定したところ、これまで本県ではピーマン、シトウへの加害報告のなかったチャノキイロアザミウマであることが確認された。  
(2) その後、南国市内の施設ピーマン1ほ場(2a)及び施設シトウ3ほ場(計40a)でも発生が認められたが、それ以外の地域のピーマン、シトウでは今のところ発生は確認されていない。  
(3) 本種は茶や果樹の害虫として知られており、本県においても被害が発生している。しかしピーマンやシトウでの被害は本県では初めてであり、県外でも沖縄県以外では被害の報告はない。
5. 形態等  
  成虫は雌雄とも体色が黄色で、頭部前縁と中胸背板前縁は灰褐色を帯び、全体に幅広である(写真1)。体長は雌が約0.8~1.0mmで雄は0.7~0.8mmと、ミナミキイロアザミウマなどと比べると小型で、前翅を閉じると中心部が縦に黒く筋状に見える。幼虫は孵化直後は黄白色でその後黄色味が強くなる。蛹も黄色をしており、胸部から腹部にかけてやや膨らむ。  
  成虫、幼虫ともミナミキイロアザミウマなどに比べて作物上での動作が素早い。
6. 被害状況  
  生息部位は生長点や葉、果実、果梗部で、花にはほとんど寄生しない。寄生を受けた葉は澁丁ち、ひどい場合は葉縁部が上側に巻き込みながら萎縮し、食害部はかすり状となる。また、その周辺部分が暗紫色に変色する場合も見られる(写真2)。生長点部分が食害されると芯止まり状態になり、その症状はチャノホコリダニの被害に似ている(写真3)。果実が食害されるとミナミキイロアザミウマの食害と同様の灰白色のコレク化した傷が生じ、商品価値が著しく損なわれる(写真4)。
7. 防除対策  
(1) ピーマン、シトウに対する本種に登録された農薬はないが、それらの作物に登録のあるスピノエース顆粒水和剤やコテツプロアブル、アフーム乳剤などで同時防除が可能と考えられる。  
(2) ハウス開口部へのネット被覆など、耕種的防除もあわせて行う。



写真1 : 成虫



写真2 : 葉の被害



写真3 : 生長点部分の被害



写真4 : ピーマン、シトウ果実の被害